

第25回長崎サミット：討議ポイント①

	「人」という面からの長崎ビュー、目指す姿
商工会議所	人手不足は事業そのものの変革を促す 「若者に選ばれるまち」という目線の取組み
同友会	2つの「質」、幅広く声を聞く →働き手（貴重な働き手を生産性の高い仕事へ）、生活者（精神的な豊かさ、生活のし易さ、退屈しない）
経営者協会	労使双方が「こうしたいんだ」という夢や目標の議論、共有。 いろいろな人が集まる場を繋ぎ価値創造が出来る社会へ
青年会議所	生産性の改善、多様性 → 限られた人数で最大の結果を出すために、生産性向上と多様性のある人事を重視している。 メタバース：世界中からオフィスにアクセス → これに対応するためにDXに取り組んでおり、メタバースの活用も検討している。
県	集まり、交流する、チャレンジのまち チャレンジに意欲的な人材が集まるまち
市	個性的で、真に魅力的なまち→地方都市だからこそ実現できる人間らしい暮らしの舞台。OSの書き換え。若い世代に「自分というアプリがサクサク動けそうな長崎、面白そう」と選ばれる
大学	生き残りのため、魅力と強みを尖らせる 「社会との接点」、「大学と実社会のざっくばらんな対話」

第25回長崎サミット：討議ポイント②

早く着手



腰を据えて取り組み

経済分野

今起きている人手不足への対応
 →企業情報の発信、マッチング
 →多様で柔軟な働き方の推進（兼業、副業なども）

将来に向けた「チャレンジ」を応援する仕組み
 →先進的な事業モデル構築の挑戦や変革
 デジタル人材の育成（今いる人の有効活用）

G X、D Xの方向性や強化分野の方針共有

企業人材のD X対応やリスクリング
 →長崎での働きがいと生産性アップ→賃上げ実現

次世代成長産業の振興、地元企業とのコラボ

地元就職、Uターン+「長崎で勝負したい」Iターン
 （国内他地域、海外）

労使の協力による働きがいのある職場作り
 働き方改革≠長時間労働是正

地域づくり全般

人口減少のペース抑制
 →魅力・活力向上+交流人口拡大
 →徹底したデジタル化

「OS」の書き換え時期
 →各主体が自らの機能やあり方を再定義
 →若者の価値観変化（サクサク動きたい）への対応

人間らしさ溢れる魅力的で快適な地方都市像
 →若者が集い楽しめる場づくり
 →スタジアムシティ構想の応援と協働
 →商店街のリバイバル
 →「長崎愛」「civic pride」を刺激する情報発信

「まちなか」の学びの場

（分散的に）行われている多くの取り組みの横串

人口減少はむしろ変革のチャンスという目線

wwwにおける情報発信（平和以外のコンテンツ）

長崎のアイデンティティや誇りを持ち、予測困難な時代に立ち向かう人財

「長崎ならではの」を意識したふるさと教育
 →様々な立場から「長崎の可能性」を子供たちへ

小・中・高を含めた教育界と産業界の連携
 →教育は学校だけのものでない、社会全体で教育
 →地域人財を育む継続的な教育のプラットフォーム

安心して暮らしていくための包摂的な学びの機会
 →デジタルデバイドの回避
 →金融リテラシーの底上げ

第25回長崎サミット：討議ポイント③

次回以降の長崎サミットプロジェクトへの橋渡し

- ①本日の討議内容を踏まえ、大きな方向性と「産官学＋金情」の役割分担を検討し、具体策へ
 - ・ 将来を見据えた長崎の方向性やベクトルを共有。キーは「若者」、「チャレンジ」、「デジタル」、「長崎らしさ」
 - ・ 分散的に取り組みを進めるより、力を合わせていく
 - ・ 各主体が「自分事」として、地域のために果たすべき役割・責任を考え、具体的なアクションに踏み出していく（不確実な時代、「一歩踏み出すと次の一歩がみえてくる」）
- ②多様な世代の声を大事にするサミットへのアップデート
 - ・ これからを担う世代の思いや希望を踏まえた将来目線の取り組みへ